

能美市

ほにゅう類図鑑 2012



はくびしん



あらいぐま



あなぐま



たぬき



発刊にあたって

市立博物館では、平成15年度より市域の動植物の生息調査を実施しており、これまで、両生・爬虫類、地質、植物、鳥類、魚類、昆虫類の各調査報告書を刊行してまいりました。平成23年4月から平成24年3月にかけては、これら一連の最後の調査として、能美市内に生息する野生のほにゅう類の調査を行い、このたび、調査報告書「能美市ほにゅう類図鑑」としてまとめることができました。

里山を含め、多様な自然環境の重要性が再認識され、各地で現況調査が行われておりますが、市町単位での取り組みはほとんどないのが現状です。そのような中で、地域の皆様のご協力をいただきながらこうした取り組みを続けてこられたのは、市民の皆様に、海浜から田園・丘陵地帯と自然環境に恵まれている「能美市」を実感していただくとともに、環境保全の大切さ、自然との共生の取り組みの重要性を改めて認識していただければとの思いからです。

近年、クマの出没をはじめ、イノシシの害、市街地でのカモシカの日撃、畑を荒らす動物などの情報が各地で聞かれ、新聞にも大きく掲載されております。人間側から見れば、「居住地に動物出現」ということになるのですが、動物側に立てば、自然環境の破壊等に伴う生態系の変化により、やむなく生死をかけて人間の居住地まで出現せざるを得ない事情があるともいえます。「共生」の難しい所です。ともあれ、まず状況を知ることが大切だと思います。

そこで今回の調査では、最初に、各地域に出向き、聞きとりを行なうことから始め、それらの情報に基づき、現地調査を実施しました。

報告書は、地域の皆様から得た情報をまとめ、市内で見つかった24種類の動物の図鑑のほか、特定外来生物のアライグマをはじめイノシシやキツネなどの姿をとらえた貴重なセンサーカメラ写真を掲載し、伝説や生活の中に出てくる動物をコラムで紹介するなど、身近な動物を知るために分かりやすい構成となっております。

市民の多くの方々が、この報告書をもとに、生物多様性の大切さを改めて考えていただく機会になればと思うとともに、市として環境保全についてこれまで以上に力を注いでいかなばという思いを強くしております。

最後になりましたが、調査及び報告書の刊行に際して、10年前の最初の調査から参加いただき、様々なご指導をいただいたいしかわ動物園の山本邦彦氏、能美市文化財保護審議会委員の安田二三男氏、継続的に情報収集をしてくださいました能美郷土史の会の宮本茂氏に深甚なる感謝を申しあげ、発刊のご挨拶といたします。

平成25年3月

能美市教育委員会

教育長 前田 英夫

目次



● 発刊にあたって	1
● 目次	2
● 調査の方法	3
● 調査の結果	3
● 能美市のほにゅう類	5
● ほにゅう類図鑑	6
● センサーカメラの世界	42
● 獣害対策	44
● ロードキル	46
● 伝説の中の動物たち	48
● あとがきにかえて	52

調査の方法

野生のほにゅう類を見つけることは難しく、実際に捕獲して調べるためには特別な許可が必要です。そこで、まず市内全域にかけて多くの住人から聞き取り調査をすることで、現在のほにゅう類の状況を知ることから始めました。そして、集まった情報をもとに実際に現地を訪れ、動物たちの足あとやフンなどの痕跡を観察したり、センサーカメラを使った撮影などの方法で、調査を行いました。

さらに、交通事故などによってケガをしたり死亡してしまった動物たちの情報も収集しました。私たちの活動を知った人たちからは、新たな目撃情報や写真なども寄せられるようになり、能美市内における野生動物たちの様子が次第に明らかになってゆきました。

こうして集められた情報は、種類ごとに地図上に記録しました。したがって地図上に示された点は、単にその生物がその時間に確認された場所であることから「見つかったところ」として記載しました。

今回の調査は2011年4月から2012年3月にかけて1年間実施しましたが、その後に寄せられた情報についても、2012年10月分までについての記録は追加しました。なお、ほにゅう類に関する分類や種名についての記載は「日本の哺乳類」(2005)に概ね従いました。



モグラ調査



ネズミ調査

調査の結果

これまでに能美市内で見つかったほにゅう類については、いくつかの報告書の中で紹介されています。たとえば「辰口町史 自然・民俗・言語編」(1983)では、25種のほにゅう類が記載されています。

特徴的な記載では、イノシシやカヤネズミなどの暖かな場所に生息する種類が見つかったことや、本来は標高の高い場所に生息するニホンカモシカが見つかったことなどから、原生林の少ない環境の割には予想以上にほにゅう類が生息するとしています。また、絶滅した種としては、ニホンジカとニホンカワウソの2種を取り上げていて、ニホンジカについては石川県内では大正年間に、能登での目撃を最後に絶滅したということ、そしてその後に発見されるものは夏から秋にかけて西南日本に生息する個体が移動してきたか、飼育個体が逃げ出したものと推測しています。また、ニホンカワウソについては、絶滅したと考えられる年代を大正末期から昭和初期ではないかとしています。

石川県内のほにゅう類について総合的にまとめた「石川県の哺乳類」(1999)では、18科53種のほにゅう類が石川県内に生息していると記載されています。そのうちアブラコウモリやノウサギなどの合計17種について、分布図上から能美市における生息状況を読み取ることができます。

さらに「体験学習・自然観察ガイド」(2004)では、2001年4月から2004年3月にかけて、いしかわ動物園内と辰口丘陵公園内、そして上徳山町地内の3か所で実施された結果から、合計15種のほにゅう類の記載があります。

また、「金沢大学辰口キャンパス周辺の自然環境(文献)調査報告書」(2012)では文献のとりまとめだけでなく、一部キャンパス内での現地調査が行われていて、その中ではニホンカモシカの生息についての記載が見られます。

今回の調査は、2005年2月に能美市が誕生して以来、市内全域におけるほにゅう類調査として初めてのことで、2011年4月1日から2012年10月30日までに記録されたほにゅう類は合計24種でした。このうち実際に生体を観察したり、死体やフィールドサインなどで確認できたのは22種で、センサーカメラのみで確認したものはドブネズミの1種、鳴き声のみによる生息の確認はムササビの1種でした。

「辰口町史」(1983)の結果と比較すると、今回新たにコウベモグラ、アライグマ、ハクビシン、ニホンジカ、ドブネズミ、クマネズミの6種が確認されました。

コウベモグラは平野部や手取川の河川敷を中心に生息域を広げているようで、在来のアズマモグラとのすみ分けが今後どのように変化するのかが注目すべき種であると考えられます。

特定外来生物にも指定されているアライグマについては、これまで加賀市から小松市にかけて生息が確認されていましたが、今回の調査によって能美市内にも生息域を広げていることが明らかになりました。さらにハクビシンについては、短い期間に生息範囲を広げていて、民家に入り込んだり、農産物への被害も発生しています。ニホンジカは今のところオスの成獣のみが確認されていて、市内で繁殖しているといった情報は得られませんでした。

一方、「辰口町史」では確認されていて今回は確認できなかったのはカワネズミ、ジネズミ、コキクガシラコウモリ、ノイヌ、ハタネズミ、カヤネズミ、ヒメネズミの7種でした。

カヤネズミについては、調査開始前の2010年には上徳山地内でも確認されていて、それ以外のノイヌを除く5種については、現在も能美市内に生息している可能性は高いと考えられます。

聞き取り調査の中で寄せられた多くの声は、近年はイノシシやニホンカモシカの目撃が増えたことに対して、ネズミやモグラ、コウモリなどの小型の動物があまり見られなくなったということがあげられます。



白昼姿を現したアナグマ

能美市のほにゅう類

目	科	種 名	辰口町史 1983年	今回確認 2011年
モグラ	トガリネズミ	カワネズミ	○	
		ジネズミ	○	
	モグラ	ヒミズ	○	○
		アズマモグラ	○	○
		コウベモグラ		○
コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○	○
		コキクガシラコウモリ	○	
	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	○	○
サル	オナガザル	ニホンザル	○	○
ネコ	イヌ	タヌキ	○	○
		キツネ	○	○
		ノイヌ	○	
	イタチ	テン	○	○
		イタチ	○	○
		アナグマ	○	○
	アライグマ	アライグマ		○
	クマ	ツキノワグマ	○	○
ジャコウネコ	ハクビシン		○	
ウシ	イノシシ	イノシシ	○	○
	シカ	ニホンジカ		○
	ウシ	ニホンカモシカ	○	○
ネズミ	リス	ニホンリス	○	○
		ムササビ	○	○
	ネズミ	ハタネズミ	○	
		カヤネズミ	○	
		アカネズミ	○	○
		ヒメネズミ	○	
		ドブネズミ		○
		クマネズミ		○
ハツカネズミ	○	○		
ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○
		合 計	25	24

ほにゅう類図鑑



コウベモグラ	7
ヒミズ・アズマモグラ	8
キクガシラコウモリ・アブラコウモリ.....	9
ニホンザル	10
タヌキ	12
キツネ	14
テン	16
イタチ	18
アナグマ	20
アライグマ	22
ツキノワグマ	24
ハクビシン	26
イノシシ.....	28
ニホンジカ	30
ニホンカモシカ.....	32
ニホンリス	34
ムササビ.....	36
アカネズミ	38
ドブネズミ・クマネズミ・ハツカネズミ	39
ノウサギ.....	40